

環境教育の実践事例

環境教育グリーンプラン

環境教育実践モデル事業

学校・家庭・地域が一体となった環境教育の実践に取り組む市町村をモデル地域として平成15・16年においては、12地域を指定しています。

実践事例 滋賀県草津市の取組

テーマ:環境パートナーの育成をめざして

地域と融合した環境教育を推進したり、成果を発信する場や材を提供したりする中で、環境問題を自分の課題とした積極的に環境にはたらきかける子ども「環境パートナー」を育てていくことをねらいとしています。

概要

市が独自に設置する市環境教育部会、環境パートナー推進委員会、エコ草津体験隊、エコミュージアム研究会が中心となり、行政、地域、NPO、各種団体等と連携・協力を図り、積極的に交流や情報交換、発信などの活動を行うことで、子どもが主体的に課題解決していく環境教育を実践しています。

校区が湖岸に接していることや、琵琶湖博物館があることなどの地域の特色を生かし、総合的な学習の時間を柱として環境教育を展開することで、学校と地域が協働して環境教育を進めていく体制が整いはじめています。

その他、子どもの主体性を生かした省エネルギー、リサイクル推進事業に取り組むために学校版ISO事業を起こし、学校の実態に即した草津市独自の取組や評価の方法による環境マネジメントシステムの確立にも取り組んでいます。

こういったさまざまな取組により、子どもたちが身近な生活を見直し、行動にうつすことにつながったという成果が出ています。



琵琶湖岸でのバードウォッチング



川岸で琵琶湖博物館の学芸員さんに教えてもらいながら川で採った魚を分類する子どもたち。

環境のための地球学習観測プログラム(グローブ)推進事業

米国の提唱する環境のための地球学習観測プログラムに参加するGLOBE協力校を平成15・16年においては、20校指定しています。

「環境のための地球学習観測プログラム」とは…

GLOBE(Global Learning and Observations to Benefit the Environment)は、全世界の幼児・児童・生徒、教師及び科学者が相互に協力しながら、環境に関する意識の啓発等を目的として環境観測や情報交換をおこなう、国際的な環境教育のプログラムです。参加国は2003年6月現在102ヶ国あります。

実践事例 秋田県天王町立天王南中学校の取組

テーマ:環境意識を高め、進んで「地球にやさしい行動」ができる生徒の育成

身近な環境の変化を継続的に観測することや、観測データ等の情報の活用を通して、環境への興味・関心を高め、地球環境を大切にしようとする態度を育てるとともに、進んで学び広い視野に立って主体的に考え行動できる資質や能力を育てることをねらいとしています。

概要

グローブ観測マニュアルに基づいた測定・観測及びデータの送信を科学部の活動を主体に行いながら、グローブのデータを理科や総合的な学習の時間(「エコタイム」)に生かしたり、生徒会を中心として環境をテーマとした学校祭を開催したり、地域と連携してアルミ缶リサイクル活動を行っています。

また、理科の「天気とその変化」の単元において、気象観測や簡単な酸性雨調査等を行ったり、「科学技術と人間」の単元において、気温や酸性雨に関する過去のデータを示しながら数年の気温の推移や酸性雨の状況について考察を行っています。

このような活動を通じて、身の回りの環境を調べる活動が世界的な規模での環境観測と直接つながりをもつことを実感し、観測を継続していくことの必要性和重要性を生徒自ら感じ取ることができたという成果が出ています。



校内に設置した測定器で、継続的に酸性雨調査を行う子どもたち



近郊の公園での植生調査